



1. ふれあいの一歩

仙台市は、昭和46年に市民の自然愛護の象徴として、市花「ハギ」、市木「ケヤキ」、市鳥「カッコウ」、市虫「スズムシ」の市花木鳥虫を制定し、仙台のすばらしい自然環境を守り貴重な財産として後世に引き継ぐ市民の決意をこの市花木鳥虫という自然の象徴に託しました。

「新しい杜の都づくり宮城野区協議会」は、平成6年度において、区民と共に創造する「宮城野区らしいまちづくり」に向けて、自然の象徴である市虫「スズムシ」を選び、「すずむしの里づくり」を行うことを定め、里づくりの推進母体である「すずむしの里づくり実行委員会」を発足しました。

実行委員会は、都市化が進むといち早く姿を消してしまうスズムシを人工飼育するだけでなく、自然の中で住み続けられる環境づくりをめざし、里づくりの方向性を「事業計画」としてまとめました。

平成7年度の活動は、事業計画を基に区民の協力を得て「放す、聴く、贈る、飼う各環境、推進部会」の組織化を図り、自然が残っている所やビオトープ（生物が息に合った空間）として自然を再生できる場所にスズムシの実験放虫を実施するなど里づくりの様々なテーマに取り組んできました。また、岩切市民センターで人工飼育した約2万匹のスズムシをベースに「みやぎのまつりスズムシ相談」「他都市とのスズムシ交換会」「スズムシ無料配布会」「スズムシ友の会募集」「スズムシ飼育箱づくり」「病院や福祉施設へのプレゼント」などスズムシと友達になりたい多くの区民との「ふれあいの一歩」として里づくりの実践を行ってきているところです。

2. 里づくりは区民の手で

平成13年（西暦2001年）を目標に、宮城野区の街中から、りゅん・りゅん・りゅんと鈴を振る虫の音が聞こえてくる里づくりを地域の一人ひとりが手をつなぎ、宮城野区民18万人の手で実現を図っていきたくと考えております。

このたび、里づくりの一環としてスズムシを愛する人の輪がひろがり、文化の香りあるコミュニケーションの確立に期待をこめて、生活の身近な接点から共感を得られやすい「文化と科学」を切り口に、音の原風景を「宮城野の音」として発刊することになりました。

※資料提供 仙台市博物館・仙台市歴史民族資料館・松館正樹（総）・木村良男

※参考文献 スズムシ日記 松井智和著
虫の博物館 小西正泰著 朝日選書
スズムシ（カラー自然シリーズ）偕成社
鳴く虫の博物館 松浦一郎著 文一総合出版

※おこたわり

本文では原則として学術用語の「スズムシ」で表記しておりますが、古文書の鈴虫、里づくりに関しては「すずむし」も一部使用しております

宮城野の音

一九九六年 二月二十五日 発行

発行所 新しい杜の都づくり宮城野区協議会

〒983-91 仙台宮城野区 五輪二丁目12番35号

宮城野区管内 ☎011-291-2111

印刷 針生印刷株式会社

企画 画・すずむしの里づくり実行委員会

制作 作・(株)セルプラン

制作協力・小竹ひろし 佐久間健

写真 真・久保秀一 貴田則男 佐藤英 庄司剛

(株)IPP 東北カラーエージェンシー

デザイン・丹野正則